

歯科医師だけは過剰と言われているので、歯科医師国家試験の合格率が極端に低い大学には入学定員の見直しを個別に行うことを検討してもらっています。薬学教育は〇六年度から六年制と四年制の二つの系統に分かれました。薬剤師国家試験を受ける人は六年制、大学・企業などで研究者を目指す人は四年制で学ぶようになっていきます。

チーム医療の推進については文科省の予算枠が決まっているわけではないが、優れた取り組みには国が補助金を出すケースもあり、文部科学省は〇六年度の癌対策基本法の成立を受け、癌専門の医師、薬剤師、看護師養成の大学院教育の「癌プロフェッショナル養成プラン」を纏めて十八大学群に支援を行っています。癌に限らず専門性の高いメディカルスタッフを拡充していく必要があります。又チーム医療が、教育、医療現場でしっかり機能するよう、今後とも施策を進めていきたいと考えています。

藤中高子副総室長からは看護師の離職者が多いことを中心に話され、次のおり解説がありました。日本には医療専門職の数を正確に把握するシステムが全医療職種にあるわけではないので、今回の会議のために、県内の医療専門職種別従事者数を調べると、看護師は離職する

ケースが多く、又大多数が熊本市に集中し大きな地域間格差があることが分かりました。県のアンケート調査で二〇〇九年度には二〇九七人の離職者がおり、退職理由の上位は結婚、出産・育児でした。また、健康上の理由、適正能力の不足を挙げる人も多く、そこで今年度から、新人看護師向けの研修事業が努力義務ながら始まりました。四年制大学卒業生は県外に就職する傾向が強く、職場選択の理由が「研修体制の充実」、「自分が学びたい専門診療科がある」、「給与の高さ」の順になっています、キャリア志向が感じられます。

准看護師志望者の判断理由は給与の高さが最上位でした。熱意ある有望な看護師を如何に地元で確保し、育て、長く勤められる環境を整えるかがこれからの大きな課題と強調されました。森田敏子教授からは看護師養成に多様なコースがあることを中心に話され、次のおり解説がありました。看護師養成は看護系大学（四年制）と短期大学（三年制）、看護士養成所（三課程）及び高等学校衛生看護科から専攻科に進む五年一貫教育があります。准看護師が看護師になるには、准看護師業務経験三年を経て看護士養成所（二年課程）に進学します。何れも看護師国家試験に合格しなければなりません。保健師と助産師は

看護系大学で学ぶか、保健師学校養成所又は助産師学校養成所で一年以上の教育を受け、国家試験に合格する必要があります。教育課程は、近年の新人看護師の実践力低下、早期離職、医療事故などへの批判から、より充実した能力を育成する指定規則に改正され、二〇〇九年度以降単位数が九十三から九十七に増加されました。熊本大学医学部保健学科では、一年次にチーム医療の重要性から他の専門職講師による専門職の役割と機能、看護職への期待の講話を行います。また四年次には看護学専攻と他学科専攻の学生が一緒に学ぶチーム医療演習がカリキュラムに組み込まれています。看護の仕事は、良好な人間関係や倫理性、理論の活用、根拠に基づいた実践といった、態度・知識・技術のバランスが重要ですが、問題点は実践力の低下、生活経験の乏しさや、基礎学力の低下、基本的技術・知識が不足しているなどの学生が増えており、そのため就職先でも新人看護師の基本的技術や知識不足、臨床現場の多重課題に対応できないことが指摘されています。特に、病院などの実習先確保に苦慮しています。また、採血や注射、吸引、心肺の聴診などの技術獲得にはシミュレータを用いた教育が有効ですが、予算が限られ、必要な教材整備が難し

い現状など種々の問題を抱えていることについて解説されました。

以上の四氏のお話から、医療職についての現状と問題点とその大きさがかなり明らかになりましたので、今後は現状の問題点をもたらし原因を究明し、その解決のために有効な手段を開発・実施し、さらにそれらを評価（結果と目標の比較）する必要があると思います。また、少子化の影響も避けて通れませんが、それはまず幼稚園を直撃し、次いで大学、結婚市場、最後に葬儀社やお寺の順に影響を受けます。学校では入学者確保が、次いで学力低下が問題になると言われ、これに対し、ヨーロッパの各国は大学の入学定員を減らして学力を維持する方法をとっており、アメリカの大学は入学者数を維持して入学後の補習教育で学力低下を防ぐ道をとっていると言われています。

最後に成りましたが、本財団は皆様方のご支援（維持会員入会・寄附等）により成り立っていますので、今後とも皆様の益々のご支援を切にお願いいたします。ご意見・ご要望等がございましたら、手紙・メール等でお気軽にお知らせいただきますようお願い申し上げます。

今年度から、人吉市の高橋酒造株式会社から三〇〇万円、また、一般財団法人化学及血清療法研究所から二〇〇万円の新たなご支援を受けることになりました。おかげさまで昨年度開始しました新たな公益事業である「熊本県医療人育成総合会議」開催の経済的基盤を確立させることができました。高橋酒造の振興への思い熱い方で、「まいらいふ」発行の過程では広告スポンサーとして終始ご支援いただきました。更には今後ご寄附という形でご支援を続けていただけることになりました。

**高橋酒造(株)並びに(一財)化学及血清療法研究所からの新たなご支援**

今年度から、人吉市の高橋酒造株式会社から三〇〇万円、また、一般財団法人化学及血清療法研究所から二〇〇万円の新たなご支援を受けることになりました。おかげさまで昨年度開始しました新たな公益事業である「熊本県医療人育成総合会議」開催の経済的基盤を確立させることができました。高橋酒造の振興への思い熱い方で、「まいらいふ」発行の過程では広告スポンサーとして終始ご支援いただきました。更には今後ご寄附という形でご支援を続けていただけることになりました。

一方、一般財団法人化学及血清療法研究所からは、「肥後医育塾」の共催団体として既に十四年間に亘って毎年三〇〇万円のご支援をいただけてきました。更には今後は増額したご支援をいただくことになりました。ここに紙面を借りて、両会社・研究所に対し深く御礼申し上げますとともに、ご期待に添える公益事業を推進していくことをお誓いしたいと存じます。

最後に成りましたが、本財団は皆様方のご支援（維持会員入会・寄附等）により成り立っていますので、今後とも皆様の益々のご支援を切にお願いいたします。ご意見・ご要望等がございましたら、手紙・メール等でお気軽にお知らせいただきますようお願い申し上げます。